

吹田須恵器窯跡 No.14・No.15 の発掘調査

調査地：原町2丁目2837番1、2849番1、2851番1、2851番2、2851番3、2852番、
2855番1、2857番11、3545番

調査期間：令和5年11月6日～12月13日

調査原因：店舗建設

吹田市域では、5世紀初頭に千里丘陵最古の窯が築かれて以降、6世紀から7世紀にかけて窯跡が群集して構築されるようになりました。現在吹田市内では須恵器窯跡が56ヶ所発見されています。

吹田須恵器窯跡 No.14 の調査では、焼成部・燃烧部などの窯体の下部は窯壁の一部が天井近くまで残り、灰原も広範囲に展開するなど、良好な状態で遺存していることがわかりました。

吹田須恵器窯跡 No.15 の調査では、灰原は残っていませんでしたが、窯体の下部(焼成部)では窯壁の一部が天井近くまで達するなど良好な状態で遺存していました。

当初の発見時に採集された須恵器から、6世紀後半に操業された窯であることが知られていましたが、今回の調査で両窯の窯体の構造等についても明らかにすることができました。



吹田須恵器窯跡 No.14(南から)



吹田須恵器窯跡 No.15(南から)

垂水南遺跡の発掘調査(66次調査)

調査地：垂水町3丁目16番5

調査期間：令和6年3月～6月

調査原因：集合住宅建設

垂水南遺跡は弥生時代から中世にかけての集落遺跡です。今回の調査では古墳時代から平安時代にわたる3面の遺構面を検出しました。第一面では足跡群や溝を検出しました。溝はやや東に振る南北方向で、平安時代以降に吹田市西部から豊中市にかけて施行された豊嶋郡条里の方向とほぼ一致しています。

第2面と第3面では古墳時代の落ち込み、水田畦畔、溝を検出し、大量の遺物が出土しました。落ち込みの肩では、古墳時代前期(4世紀)の遺物がまとまって出土しました。土師器の壺や高杯は当時の生活面に立ったままの状態出土し、壺は銅鏡を模した石製品「有孔円盤」を敷いてその上に立てていました。

落ち込み埋土からは多量の古墳時代の土師器と須恵器のほか、勾玉・管玉などの玉類、渡来人が持ち込んだとみられる韓式系土器も多数出土しました。



第1面の溝と足跡群



第3面の落ち込みと溝



まとまって出土した土器

高畑遺跡の発掘調査

調査地：昭和町

調査期間：令和6年8月6日～8日

調査原因：個人住宅建築

高畑遺跡は昭和町に所在する古墳時代と中世の集落遺跡です。今回の調査ではピットが計23基確認されました。一部のピットからは古墳時代の土師器と5世紀前半の須恵器が出土しました。検出されたピットは建物跡や柵等の一部と推測され、調査地に古墳時代の集落跡が展開していたと考えられます。



調査区全景(西から)



調査区全景(東から)



須恵器出土状況(北西から)

垂水南遺跡の発掘調査(67次調査)

調査地：垂水町3丁目32番1

調査期間：令和6年8月23日～9月9日

調査原因：エレベーター設置工事

今回の調査では、鎌倉時代の畦畔、古墳時代の土器だまり、古墳時代以前のピットが見つかりました。古墳時代の土器だまりからは、大量の土師器のほか、準構造船の部材が出土しました。古墳時代の土器だまりから準構造船が出土したことにより、この地に古墳時代に船を利用して暮らしていた人々がいたことがわかりました。



鎌倉時代の畦畔(北東から)



土器だまり(北東から)



準構造船縦板(外面)



準構造船縦板(内面)